

## 惜 別 の 辞

経済学会会長・経済学部長 石 田 晃

平成12年3月、中村智一郎教授が定年を迎えられ本学を退職されました。教授の長年の本学における教育及び研究上の功績に対しまして深く感謝すると共にここに惜別の辞を述べます。

年譜をみますと、中村教授は、中央大学大学院経済学研究科経済学専攻博士課程を終了後、昭和44年本学（当時は千葉敬愛経済大学と称していた）に着任され、爾来31年の長きに亘って社会政策総論、日本経済論などを担当され、学生の指導に当たられると共に、この間図書館長、教務部長、経済研究所長、経済学部長を歴任し、大学の管理運営においても立派な業績を挙げてこられました。

このような業績によって、先生には名誉教授の称号が贈られました。また、本学における先生の研究業績および職歴などの詳細につきましては、本論集に掲載されております一覧表に譲ることにいたします。

中村先生の大学人としての職歴は、平成4年までの第2次ベビーブームをはさんでこれから本格的に始まる少子化世代における大学受験時代の前までの最も良き時代と重なっていると思われます。大学受験者数は年々増大し、学生の質も現在に比べると良く、学生と教師とのコミュニケーションも比較的スムーズに行われた、先生の大学生時代の良い雰囲気がいまだ少しでも残されていた時

代を過ごされたと思われる。先生が学園報に寄稿された「退職に当たって」には次のように退職に当たっての感慨が述べられているので再掲させて頂く。「敬愛大学における私の31年間を振り返って見る時、私は大変恵まれた環境の下で、自由に発言し、行動し、且つ安心して研究者・教育者としての生活に没頭する事が出来た。また心底より充実し、十分に満足した大学教員としての生活を送ることが出来たとの思いが強い。」 誠に幸せな大学人としての生活であったと思う。先生にはなおしばらく非常勤講師として本学のためにご活躍いただき、つい先日も白桃書房から敬愛大学学術叢書として「日本の最低賃金制と社会保障」を出版され、ますます研究活動に打ち込んでおられることに敬意を表したいと思います。どうかこれからもお元気で研究に励まれると共に我々後進を指導して頂きたいと願います。